

総合討論

○座長 以上、5名の方から発表をいただきました。予定時間が5分ほど超過しています。この後10分間は総合討論の予定でしたが、12時までの7分間ほど、最後の総合討論の時間とさせていただきます。全体を通して質問とか意見、有りましたら、どうぞ。

○質問者 トップの大塚君が、最後の辺で、御嶽山を2016年に噴火の影響を調査したけれども、引き続いて笠ヶ岳の調査も実施したものの、その後再度御嶽山の調査はできなかったというような話もありました。

昨日の話聞きますと、御嶽山というのは、非常に僕にとっては重要な山で、あそこの糞尿は多分、左側を下り、木曾川を下って、伊勢湾へ行く、と。

そういうことからすると、日本のライチョウは世界の最南端にありますし、岐阜県民はライチョウが嫌いかではなくて、無関心で知らなさ過ぎるのではないかと。そういう意味から、美濃と飛騨を結ぶライチョウの生息地の御嶽山というのは、世界的な凄い位置にある山だと思います。私自身、若き昭和36年に御嶽山の植生調査に入ったのが始まりで、今日まで続けておって、御嶽山の2016年の調査にも参加させていただきました。今回は良い機会なので、その当時から僕も言っているのですが、2016年ポッキリで終わるのではなくて、やっぱり継続して10年ぐらいを目安に県の方がたくさんいるので、引き続き御嶽山のライチョウの調査を続けて欲しいということ、強く望む意見を、ちょっと申し上げさせていただきます。

以上です。

○座長 はい。岐阜県の方は今回のライチョウ会議の大会を機会に、今後も継続して御嶽山をはじめ県下のライチョウが生息する山岳の調査を継続していただけるものと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

他に、ご意見、ございませんでしょうか。時間がちょっと超過していますので、ここで総合討論を終わらせていただきます。意見がありましたら、また別に聞かせていただけたらと思います。

以上で第1部の生息現地での保全等のセクションを終わらせていただきます。

どうも、ありがとうございました。

○司会 中村先生、どうもありがとうございました。